



寺院名物シリーズ③⑤ 大田東組 浄善寺の大銀杏

数年前から少しずつ、大銀杏の黄葉に惹かれて年代を問わず参拝する方が増え、その方々からの情報発信がさらに多くの人々を惹きつけることに。ご門徒さんだけでなく地域を超えてご法縁が広がり誠にありがたいことです。南無

# 山陰

編集 御同朋の社会をめざす運動  
山陰教区委員会

発行 山陰教区事務所  
〒660-0002 松江市大正町四四三ノ一  
本願寺山陰教堂

TEL 〇八五二 〇八五二 〇八五二  
FAX 〇八五二 〇八五二 〇八五二  
発行所 高橋格昭

今年六月、ロータリークラブの国際大会に出席するため、カナダのトロントを訪れました。当地では、たまたま同じ時期に「LGBT」の世界規模のパレードが開催されており、レインボーフラッグとともに笑顔で歩く多くの人たちに出会いました。『連研ノートE』問い八のサブテーマには、「いきいきと生きるために、性に関する自由な生き方を求める人が増えています。お互いの悩みや思いを語り合ってみましょう」と、いわゆるジェンダーの問題が提起されています。日本でも、近年これらに関してオープンに語られるようになりまして、社会的にも認知されてきてはいますが、完全に乗り越えるにはもう少し時間がかかりそうです。社会に対してきちんと向き合うと、解決しなければならぬ問題はさまざま多岐にわたって存在していることがわかります。

昨年の十一月、築地本願寺で開催された「次世代リーダーズサミット」に参加し新たな学びを得ました。国連では、「誰一人取り残さない」を理念として、「貧困」・「教育」・「ジェ

## 貧困の克服に向けて ～Dana for World Peace～ 子どもたちを育むために～

御同朋の社会をめざす運動  
中央委員会 委員 北島清秀  
山陰教区委員会副委員長

ンダー」・「不平等」・「平和」などの課題について、世界を変革するため十七の項目からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられています。ご臨席されたご門主は、社会の諸問題を解決するための具体的な方向性を改めて検討し、より良い社会をつくるために果たしうる役割を考えていかなければならない旨をお述べになりました。それは、ご親教「念仏者の生き方」に示されたお心に他なりません。

私たちの身の回りにある社会問題は多種多様ですが、今期の実践運動では特に、「貧困の克服に向けて」に取り組みします。伝灯奉告法要を機縁として、「念仏者の生き方」のお心をいただき、一体感を持って取り組むことから、宗門全体の実践目標がこのように掲げられました。できることから始めましょう。

この度、実践運動中央委員会委員並びに教区委員会副委員長を拝命いたしました。微力ながら精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 同朋社会研修会

期 日 二〇一八 (平成三十) 年  
 七月二日 (月)  
 会 場 松江テルサ 大会議室  
 参加者 一〇〇名

今年度から宗門全体で取り組むこととなった重点プロジェクト実践目標「貧困の克服に向けて子どもたちを育むために」について学びを深めるため、このたびは、山科醍醐子どもひろば理事長の

村井琢哉先生を講師にお迎えし、「子どもの貧困」をテーマに開催いたしました。講義では、子どもを取り巻く状況や貧困対策の内容について、現場での事例を交えながらお話しをしていただきました。参加者からは、「貧困の構造を改めて知る事ができた」「自分たちの地域に合ったサポートが大事だということを感じました」「総論としてよく分かったが、寺院活動としての取り組みについて具体策が思いつかない！」など様々なご意見・ご感想をいただきました。

### 初心者のための浄土真宗 (若婦人聞法のつどい) 開催

期 日 二〇一八 (平成三十) 年  
 七月十六日 (月)  
 会 場 本願寺山陰教堂  
 教化センター研修室  
 参加者 四十三名  
 (子ども含む)

ご講師に龍谷大学非常勤講師で元京都女子中学校・高等学校教諭(宗教科)の小池秀章先生を迎え、「仏さまってなあに」と題して、初めて浄土真宗のみ教えにふれる方

向けのお話しをしていただきました。本年度も皆さんにご参加いただきやすいように開催日は祝日に設定し、ご家族・子どもさんも一緒に参加いただきました。アンケートでは、「和やかな雰囲気の中、とてもわかりやすいお言葉での研修会でした」「ひとつひとつが、なるほど、そうなのか、と思うことばかりでした」「自分自身を見つめ直す貴重な時間となりました」といったご感想をいただきました。



手をあわせ 心あわせて しあわせに

報恩

感謝



ぶつだんの

内田 裏造 商店

・木次・ 下熊谷・ 出雲・  
 ☎0854-42-0266 ☎0854-42-3711 ☎0853-21-3253

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店  
 寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社  
**古田た** 佛具製作所

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)  
 TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836  
 フリーダイヤル 0120-178-413  
 フリーファックス 0120-343-036

# 山陰教区青年布教使大会開催

江津組浄光寺 能美 顕之

去る七月十七日、出雲市妙壽寺様にて開催されました「山陰教区青年布教使大会」に出講者の一人としてお参りさせていただきました。頂戴した時間は二十分。講題を、このご依頼に、「込められたもの」とし、お取次ぎをさせていただきました。限られた短い時間の中に、どれだけの熱を込められるか、と頭の中で思案を巡らし、まとめた構成。お聴聞の皆さまのあたたかいまなざしの中、緊張の中にも、何とか言葉が出て来てくれました。

終了後、戴いたご講評。  
「ご講題をもっと大切に。ご門主さまのご消息のお言葉をもっと大切に。」

この至極基本的なご指摘に、私自身の込めたものの薄さを思いましました。自分の熱を込めようとするあまりに、私自身に込められたものを十分に伝えることが疎かになっていました。学ばせていただきました。

「お取次ぎは私が阿弥陀さまの話しをするのではなく、阿弥陀さまが私を語ってくださいさるんだよ。」

以前、こんなことを聞かせてくださった先生がおられました。その際は全く意味が分かりませんでした。



今は少しだけ分かるように思います。本当に気づきと、学びの二十分間でした。今後も「込められたもの」というものを自分の一つのテーマとして、布教使として戴く限られたお時間を大切にしていきたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重なご縁をくださいました山陰教区布教団の皆さま、会所の妙壽寺さま、お聴聞の皆さま、本当にありがとうございました。

# 中・四国ブロック

## 「まことの保育大学講座」

平成三十年七月二十六日(木)・二十七日(金)の二日間で、山陰教区にて中・四国ブロック「まことの保育大学講座」を松江エクセルホテル東急にて開催しました。

この講座を開催するにあたり、平成三十年七月豪雨の影響で開催や参加等、多数心配がありました。他教区の協力を得て無事に開催することができました。

一日目は記念講演として「株式会社ウエカツ水産」代表であり、東京海洋大学客員教授の上田勝彦先生に食育についてのお話しをしていただきました。

テーマは「魚を通して子どもたちと親たちに伝える、自然界との関りと食のしくみ」。食の中でも海に囲まれた島国で育った日本人にとって、もっとも近い食べ物である「魚食」を中心に、食についての講演をいただきました。

二日目は基調講演といたしまして、本願寺派保育連盟評議員の鷲尾純一先生に講演をしていただきました。

テーマは「『まことの保育』との出遇い」でした。

山陰教区には保育連盟加入単位会が八単位と、連区内でも全国的にも

少ない中での開催となりましたが、理事長・副理事長を中心に各園の職員の方々の協力のおかげで無事に大会を終えることができました。



# 門徒推進員連絡協議会 総会・研修会「念仏者の生き方」

鹿足組正法寺 佐堂 博

平成三十年度の総会・研修会にて、小生、心の琴線に触れたお話しを承りました。山陰教区研修講師・波北顕先生のご講義から、如是我聞。

念仏者の「お陰さま」は、一般社会の「お陰さま」と何処が異なるのでしょうか？

念仏者に於いては、その「お陰さま」の前に、必ず「慚愧(ざんき)が入って来ます。そのこの處(ところ)

が一般社会の其れとは、根本的に異なるのです。

恥ずべき自分の行為を反省し(自己の省察)、心から恥ずかしく思うことが先行するのです。

有福の善太郎さんは、田の迫の磯七さん宛の手紙いっばいに、「おありがたやおありがたや」と記し、磯七さんは返信いっばいに、「おはすかしやおはすかしや」と記したそ

うです。

親鸞聖人、愚禿悲歎懐の「無慚無愧(ぎ)のこの身にて まことのころはなけれども 弥陀の回向の御名なれば 攻徳は十方にみちたまふ」を想起します。前半の文言には、厳しい、自己を見つめる慚愧の目が光っています。しかし、後半には「お陰さま」・「おありがたや」と歎喜(かんぎ)が満ち溢れているように思われます。

門徒推進員は、「少欲知足」、「和顔愛語」の生き方を目標にして、日々の生活を送りましょう、と結ばれました。

合掌

## 特別法務員・法務員試験合格者連絡協議会、 勤式研修会

十月十日(水)、山陰教堂教化センター研修室にて、「特別法務員・法務員試験合格者連絡協議会」並びに「勤式研修会」を開催しました。

午前中に開催した連絡協議会では、小原静伍教区勤式指導員から、本願寺派の「唱読音」や僧侶育成体系による指導員(法務員)の役割など、九月に本山で開催された勤式指導員研修会の報告がありました。その後協議会では、教区内における勤式

儀礼に関して、課題・伝え方の実践例、現在求められていることなどについて、意見交換を行いました。

午後から開催した研修会では、本願寺会役者・桃園裕成師から、「法要勤修の手引き」をテーマにお話しをいただきました。

一般寺院における会奉行の役割や差定の作り方など、法要において必要とされる事柄について学びを深めました。



<p>井筒 法衣・仏具製造及び販売</p> <p>代表取締役社長 今岡規代</p> <p>●本社 600-8468 京都市下京区堀川通 新花屋町角(西本願寺前) Tel 075-351-1234 0120-075-720 Fax 075-341-7905</p> <p>●東京店 160-0008 東京都新宿区三栄町 十一番地六 Tel 03-3358-1500 Fax 03-3359-8902</p> <p>井筒法衣店</p> <p>SINCE 1705</p>	<p>印刷と出版でできること。 編集・デザイン・印刷・出版のプロとして 様々なソリューションを提供する。 人と向き合い、地域と向き合い一緒にってつくること。 それが私たちにできる、地域貢献のカチだと考えています。</p> <p>60周年 これまでも、これからも。</p> <p>お客様の良き相談相手になることを目指します 株式会社谷口印刷 ハーベスト出版</p> 
---	---

# 公聴会報告

このたびの公聴会は次の三点を主な目的として開催されました。

①二〇一八(平成三十)年度から新たに改定された実践運動総合基本計画・重点プロジェクトの周知と、具体的事例の集約。

②現行の賦課制度について共通認識を図り、今後の宗門財政について意見聴取と情報共有を行う。

③今後の日本社会で求められる僧侶等の育成にかかる具体策。

以上の三点を中心に住職・僧侶・寺族・門信徒の皆さまからご意見・ご提言を伺う機会となりました。

一、日時 二〇一八(平成三十)年八月二十七日(月) 十三時三十分～十六時

二、会場 本願寺山陰教堂 教化センター研修室

三、出席者 〈宗派出向者〉

(一) 池田行信氏 総務

(二) 竹中了哲氏 副総務

(三) 白川了信氏 所務部へ文書担当 部長

(四) 藤澤理映氏 社会部へ宗教教育担当 賛事

四、参加者 五十六名

五、日程 二時間三十分

## 【報告】

- ①二〇一七年度公聴会の経過報告
- ②宗門総合振興計画第一期終了および第二期始動について

## 【協議】

### 〈説明〉

- ①御同朋の社会をめざす運動(実践運動)について
- ②宗門財政について(現行の賦課制度について)
- ③僧侶育成体系プロジェクトについて

### 〈意見聴取〉

#### 総局まよめの挨拶

賦課基準を含めた宗門確定財源の抜本的改革の検討を進めるとの報告がありました。

池田総務は、第十回宗勢基本調査によると、全国では寺院収入が一〇〇万円未満は二一・七%、一〇〇〇万円以上が一八・八%、さらにその中でも二〇〇〇万円以上は六%ある。一律公平にするという賦課制度には無理があり、今は護持口数、門徒戸数といえども教区間格差が非常に大きく課題があるのではないかとの見解を示されました。

また、現在の宗門の組織については、「全宗門的」にどのくらいの賦課金が適当であるのか見当がつかないというのが現状。宗門財政構想委員会は宗門のランドデザインをどう

描くのかということが仕事。期待してほしい。」とのコメントを頂きました。



近 御本山用達  
株式会社 川勝法衣店

0120-075-055  
〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入  
TEL.075-371-0367(代)  
FAX.075-371-5088

JTB 感動のそばに、いつも。

株式会社 JTB 松江支店

〒690-0003  
松江市朝日町477-17 松江SUNビル7階  
TEL 0852-23-6720  
FAX 0852-23-7739  
営業時間：9:30～17:30 (土・日・祝日休業)

# 第六十二回 中・四国地区仏教婦人会大会に参加して

山陰教区仏教婦人会連盟副委員長 澤田郁子

八月三十日、徳島市にて、ご門主さまご臨席のもと、「いのち・つながり・ご縁」のテーマで、第六十一回中・四国地区仏教婦人会大会が盛大に開催され、そのご縁にあえたことをとてもうれしく思っています。

厳肅な式典に続いて、お念仏のみ教えに出遇い「生かされている」「支えられている」こと、人々のご縁を東日本大震災で被災された菅原文子さんが時には涙を浮かべながらも、力強く「悲しみの中から生きぬく力」をお話しになりました。午後からは、

法話楽団、迦陵頻伽の音楽法話があり、童謡など馴染みの深い歌に合わせ会場の人達と心は一つになり、私は、久しぶりに「しんらんさま」を聞いて心が熱くなりました。私の実家、掛合町松笠のお寺・明泉寺は、当時から日曜学校が開かれ、トトロの森のような山道を三十分くらい歩いてやつとお寺に着くと坊守さんが出迎えてくださり、本堂でお姉ちゃんが弾かれるオルガンで歌う「しんらんさま」が大好きでした。何かに悩んだ時、ふつと口からついて出て

来ていた「しんらんさまはよりそつてわたしの手を取りあゆまれる…」会場で歌っている時「あ、三番だったんだ。」と気がつきました。先日、明泉寺のご住職さまから、「昭和三十七、三十八年頃は子どもさんも多く七十五人位。きなこのおにぎりやおはぎを沢山手作りしていましたね。」とお話しを伺いました。私の浄土真宗の心はこの頃いただいたのかしらと感謝し、小さい頃から仏縁にあわせていただくことの大切さを感じつつ、穏やかで優しい時が流れました。

大会最後のアトラクション、阿波踊りは、激しい動きの中にも皆笑顔。揃いの着物に手甲は、白がまぶしく、まつすぐ上に伸ばされた手が「凜」として印象的でした。二年後の東京オリンピックの年、安芸教区で開催されます次回中四国地区仏教婦人会大会にも是非参加して、沢山の皆さまとお逢い出来ますことを願っております。



## 連研のための研修会に参加して

出雲南組善福寺住職 蘿 裕章

先日、山陰教堂において標記の研修会があり、組の役員をしていることから参加させていただきました。出雲南組では前回の受講者の意見や感想として「基礎的な知識」「行譜の勤行」「基礎的な作法」などが出ました。この研修会で学んだことを来年予定している連研に取り入れたいと思います。この研修会で特に参考になったのは、午後の話し合い

座で各組・各寺院の連研の実情を聞かせていただいたことです。当山は典型的な中山間地にある寺院です。少子高齢化は極度に進んでいます。まさか地元小学校が廃校となるとは幼いころ思ってもいませんでした。同じような状況のご住職が複数おられ、今後の維持運営はますます厳しいと言うのが共通した意見でした。したがって、この現状でできること

をしていく、という考えで寺院運営しています。しかし、ある市街地のご住職は受講者は全員門徒推進員になってもらうことを前提にしていると言われ、取り組みの差を痛感しました。当山では前回の連研で七人の方に受講いただきました。その中のお一人は受講期間中入院されました。ところが七人方はみんな揃って修了しようとして励ましあっておられ、その方は連研研修日に医師から外泊許可を取られて受講されました。結果、全員そろっての修了式でした。連研修了者の方々には報恩講などの行事

で準備、片付けはもとより帳付け、司会進行など手伝っていただいています。新たに一人、門徒推進員になっていただきました。そうすると、また一人門徒になると言ってくれました。来年の連研に向け、すでに声掛けはしてあるとのこと。ありがたい限りです。ご門徒さんとともに歩む寺院であるためにも、連研の輪が広がるよう努力したいと思えます。とても良い研修の機会をいただき誠にありがとうございました。

## 二〇一八(平成三十)年度

### 若寺族婦人研修会

九月十日、本願寺山陰教室教化センターにて、若寺族婦人研修会を開催しました。

ご講師は、出雲市比良助産院・日本助産評価機構アドバンス助産師であり、「しんぐるまざあず・ふおーらむ出雲」で、ひとり親家庭の支援活動を行っておられる比良静代先生。今年度から策定された宗門重点プロジェクトの実践目標「貧困の克服に向けて～Dana for World Peace～」について、理解を深めるため、現場でご活動されている方をご講師としてお招きしました。

ひとり親家庭の背景と現状、貧困に陥る原因、ひとり親家庭への支援、支援をする人に伝えたいことなど、丁寧にお話しくださいました。また、「しんぐるまざあず・ふおーらむ出雲」での取り組み、「おてらおやつクラブ」への支援・協力活動など、実例も交えながらお聞かせいただきました。

講義の後、お昼休憩に「他己紹介」タイムを行いました。研修会担当の松江組寺族婦人の皆さまの進行で、

参加者同士の親睦を深めることができました。

午後のアトラクションでは松江城堀川遊覧船に乗り、松江観光を楽しみました。



## 山陰教区僧侶研修会

九月十四日(金)、出雲市民会館において僧侶研修会を開催しました。毎年度、僧侶研修会は二日間の開催でしたが、過去のアンケートのご意見などを参考に、今年度は試験的に一日開催といたしました。

ご講師は、東北大学客員教授・清元秀泰氏。清元先生は、西本願寺医師の会の会員であり、本願寺参与を務めていらっしゃいます。

「災害救急医療の現場での経験から思うこと」と題し、東日本大震災における医療復興に尽力されたご経験などを含め、ご講義をいただきました。

前半の講義テーマは、「激甚災害時の心のケアと未来型医療の創造」サバイバズ・ギルトから個別化医療まで。災害時、周りの人が亡くなったのに自分だけが助かったことに対する罪悪感を持つ方が多く、精神的なサポートが必要であるとのことでした。

また、少子高齢化社会において望まれるのは、これまでの画一的治療ではなく、それぞれの体質に応じた個別化医療が期待されるとお話しくださいました。

午後からの勤式講習会では、小原静伍教区勤式指導員から、荘厳にっいての講習をいただきました。



後半は、「再先端医療と臨床宗教師の役割」命を支える宗教の在り方をテーマにお話しいただきました。人の死を遠ざけている現在の医療体制の中で、医療を紡ぐ宗教の重要性をお話しくださいました。スライドショーの中の一枚に書かれた「死に直面した人は生かされている意味を知る」の言葉が印象的でした。

今回は、ご講師への質問を事前に用紙に書いていただき、休憩時間にご講師にお見せして、ご回答いただく形にしました。清元先生から一つひとつの質問に丁寧にお答えを頂戴いたしました。

# 第四連区青年布教使研修会

教区布教団青年代表 佐々木 かわり

十月一・二日の二日間、第四連区青年布教使研修会を出雲で開催させていただきました。

テーマは布教団連合にてあらかじめ決められていたので、サブテーマの「これからの布教使として」に、この研修会に対する思いを乗せました。

他教区からご出講いただいたの布教大会と座学の研修会の二本柱というスタンダードな形を取りますが、これは山陰での連区青年布教使研修会では珍しいやり方です。

前日までの台風の影響もあり不安な気持ちで当日の朝を迎えましたが、沢山の参加をいただき、特に山陰教区の青年布教使、青年を卒業された布教使の方々が多くご参加くださり、様々な形でお手伝いいただきました。

この度の研修会で得た経験や反省をまた次の機会に活かせるよう、青年布教使で話し合っていきたいと思えます。

今回の会処を相談した際に、初めて鷺浦説教所・鶴峠説教所の存在を知りました。この二つの説教所は、集落のご門徒さんが長年護理育ててこられた大切な場所です。

この説教所でこそ布教大会をやり

たい、沢山の方にこの存在を知っていただきたい、また、ここが青年布教使で満堂になれば、それはご門徒さんの刺激になるのではないかと、この思いから、この二つの説教所を布教大会の会処とさせていただきます。

日々の法務の中で感じる、少しずつ変化していく流れ。今の社会における目線の有り様。これらを鑑みるに、お寺を取り巻く環境は、どんどん

ん厳しいものになっていきつつあります。その中で出会わせていただいた二つの説教所に、私は希望をみたように感じました。

鶴峠説教所での布教大会を終えた後、お帰りになる際「またここで法座を開いてね」と声をかけてくださったご門徒さんがおられたとお聞きしました。

そのお気持ちに応えられるよう、僧侶として布教使として、また一人の人間として、まず何を大切に、これから何をしたいのか。考えさせていただく、大切なきっかけを頂戴しました。

## 仏教婦人会連盟 実践運動研修会

期 日 二〇一八 (平成三十) 年

十月九日 (火)

会 場 出雲市民会館 三〇一会議室  
参加者 九十四名

浄土真宗総合研究所の高橋一仁先生を講師に迎え「念仏に生かされるよろこびを行動へ」ご親教『念仏者の生き方』のお心をいただいて「テーマに開催しました。ご親教『念仏者の生き方』は、新仏婦綱領と共に今年度から総連盟、教区連盟の活動方針の中に掲げられています。限

られた時間ではありましたが、ご講師からは段落ごとに丁寧に話をいただき、内容の周知と今後の活動に向けて学びを深めました。参加者からは「七項目に分けて講義をしていただきとてもわかりやすく、今まで何となく、が少し理解することができました。」「難しい言葉が少なく大変良かった」「念仏者の生き方についての具体的な実践についてもお話ししてもらえれば...」「いろいろな職業経験や豊富な人生経験を話され入りやすく良かった。」などのご

意見・ご感想をいただきました。



### キッズサンガ(子ども・若者)縁(くり) サポーター研修会

十月十五日(月)、山陰教堂教化センターにて、サポーター研修会を開催しました。今年度は組のキッズサンガサポーターだけでなく、生きづらさを抱える現代の若者に対して関心のある方も参加対象とさせていただきますました。

昨年引き続き古川潤哉師(佐賀教区松浦組浄誓寺、子ども・若者ご縁づくり推進委員会委員・日本思春期学会理事)にご出講いただき、「思春期・若者の生きづらさとその背景」をテーマにお話しいただきました。

古川師は、教育現場での性教育に携わっていらっしゃいます。現場でのご経験を含め、多感な時期を過ごす思春期の子どもたちとの関わり方・接し方、現代の性の多様化、生

きづらさを抱える若者たちの心の声など、スライドショーを使って、わかりやすい語り口でお話しくださいました。

講義の後、三班に分かれ、教区マネージャーの進行で分散会を行いました。参加者からは、「ご講師の熱量に刺激を受けた。わかりやすく気づきの多いご講義だった」「中高生が気軽に相談できる環境を作ってほしい」といった声をいただきました。

量に刺激を受けた。わかりやすく気づきの多いご講義だった」「中高生が気軽に相談できる環境を作ってほしい」といった声をいただきました。



### 本願寺山陰教堂報恩講法要

十月十九日(金)、本願寺山陰教堂の報恩講法要をお勤めいたしました。鳥取因幡組と松江組のご法中に結衆としてご出勤いただき、無量寿経作法(午前法要)と正信念仏偈作法(午後法要)をお勤めしました。

本願寺派布教使・那須野浄英師(滋賀教区神崎組弘誓寺ご住職)からご法話をいただき、参拝の皆さまと一緒に聴聞をさせていただきました。

教区内寺院の団体参拝や、近隣寺院のご門徒・寺院の方のご参拝をいただきました。ようこそお参りくださいました。



### 平成三十年度

### 山陰教区門徒総代研修大会報告

山陰教区門徒総代会副会長 山根 一 記

願寺総代)

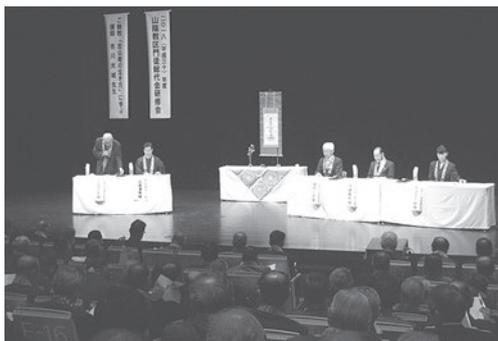
山陰教区門徒総代会の研修会を出雲市において、約二三〇名の参加のもと、昨年に引き続きパネルディスカッションの形式で研修会を開催しました。

今回の研修大会は、「ご親教『念仏者の生き方』の教義理解を深め、宗教とは人間が人間らしく生きていくための指針であること」の認識を深める良い機会となりました。

昨今、家族葬や散骨など、寺院との関わりが希薄になっているが、護持活動に当たっては住職と総代が連携し、さまざまな手段を講じて無縁社会を有縁社会に変えていくことが重要です。

本研修大会は各パネリストの発表、会場からの参加者との質疑応答など充実した研修会となりました。

- (1) 期日 十月十六日(火)
- (2) 会場 ビッグハート出雲
- (3) テーマ 「ご親教『念仏者の生き方』に学ぶ」
- (4) 講師 吉川光城先生  
本願寺派布教使 山陰教区飯南組 真向寺住職
- (5) パネリスト  
北島清秀氏(神門組 乗光寺住職 実践運動中央委員)  
福原一宇氏(松江組 明宗寺)  
山陰教区門徒推進員連絡協議会副会長)  
伊藤義照氏(鹿足組 正法寺総代 教区門徒総代会常任理事)
- (6) コーディネーター  
大迫五十鈴氏(大田東組 常見寺総代 全国及び教区仏婦連盟委員長)  
上田正吉氏(大田西組 敬



## 第四連区門徒推進員実践運動研修会に参加して

鳥取因幡組願正寺 中原 隆

第四連区門徒推進員実践運動研修会に、はじめて参加しました。

平成三十年度は十月二十七日・二十八日の二日間に亘り、百五十三名の参加で鳥根県玉造温泉に於いて開催され、『次世代育成について』と題して研修をしました。

次年度の開催は備後教区が担当され、倉敷での開催を検討されているそうです。



研修は宿舎から正面に見える「ゆ〜ゆ〜」であり、素晴らしい会場でした。

鳥根県生まれの建築家高松伸氏による設計だそうです。

宿舎に戻っての話し合い法座では、子ども・若者ご縁づくり推進室担当部長・栄俊英師の問題提起のもと七班に別れて話し合いが行われました。

話し合い法座ではまずお念仏との出遭いを振り返って、それぞれが意見を発表されました。

「お仏壇は家の中心にあり、幼い頃から知らないうちに手を合せていた。」

「他宗から嫁ぎ何もわからない私を、義母は優しく教えてくれました。」

「次世代へ伝えたいこととして妙好人の話しをする。」

「日常生活の中で食前・食後の言葉を通して、いのちの尊さを伝える。」

「私に何が出来るのかとの問いに、資格ではなく自覚し参画して行く人になりたい。」

お寺の護持に努め聴聞を重ねて行くことなど、限られた時間の中で活発な話し合いが行われ、意義深い研修会となりました。

上手くまとまりませんが、この会

を準備して頂いた多くの方にお礼申しあげます。  
半分観光気分ではありましたが、思い出に残る楽しい研修会でした。

合掌

### 「鳥根県西部地震」「平成三十年七月豪雨」義捐金について

四月九日に発生した鳥根県西部地震、平成三十年七月豪雨について、教区内外から当教区教務所宛に心温まる義捐金を頂戴しております。

お寄せいただいた義捐金については、被害に遭われた組へ送金させていただきます。

皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、一日も早い復興を衷心より念じます。

合掌

### 義捐金をお寄せいただいた方々

(平成三十年十二月二十日現在)

※前号掲載以降にお寄せいただいた義捐金

#### 鳥根県西部地震

山陰教区寺族婦人会連盟、邑智東組、邑智西組、江津組、浜田組仏教婦人会連盟、出雲組宗玄寺、江津組西教寺

(敬称略)

#### 平成三十年七月豪雨

山陰教区仏教婦人会連盟、山陰教区寺族婦人会連盟、山陰教区門徒推進員連絡協議会、大田西組、邑智東組、江

津組、鳥取因幡組西法寺、出雲組宗玄寺、大田東組眞光寺、大田東組正願寺、大田東組高林寺、大田中組善正寺、大田西組願楽寺、邑智東組光西寺、江津組西教寺、浜田組覚永寺門信徒会、益田組光明寺、鹿足組正法寺、赤名仏教会(飯南組高林坊)

(敬称略) ※十二月二十日現在

今般、宗派「たすけあい運動募金・平成三十年七月豪雨災害義捐金」が、十月三十一日をもって受付を終了いたしました。

山陰教区で取り組んできました「平成三十年七月豪雨」、並びに「鳥根県西部地震」災害義捐金活動についても、十一月をもって終了させていただきました、お預かりしております義捐金については、教区にて被害のご報告をいただいているご寺院に、組長様を通してお届けさせていただきます。

なお、これらの災害に対する募金活動を行っていただいているご寺院等もあるかと存じますので、教区では年内まで義捐金を受け付けさせていただきますこと申し添えます。

多くのご支援をいただき誠にありがとうございました。

ドレミファ組

# 実践運動の現状と展望

千須賀組 長源寺兼務住職 津田宝慧

私は、かねてから実践運動に関心がありました。それは、実践運動が差別問題に深く切り込んだ内容であるかもしれないという期待からです。

二十七年前、私は血友病の兄を薬害HIV、エイズという病気で亡くしました。今は、エイズの感染経路やエイズウイルスの存在、治療法が明らかにされています。しかし、私が兄のその病を知ったときには、感染経路もウイルスも明らかにされておらず、ただ、ただ、発症したら、一〇〇パーセント死ぬという事だけがとりざたされていました。

テレビや週刊誌は、薬害エイズの被害者に同情するかのようになみせかけた表現を用いながら、巧みに視聴者や読者の興味を煽り、視聴率や購読意欲を上げる事だけが大切で、そんな姿勢しかみせてくれませんでした。

毎日、毎日、テレビや週刊誌でエイズがいかに恐ろしく、特殊な病気かが報道され、差別的な言葉や映像の氾濫に、生きよう、という気持ちさえそがれていく、そんな体験を通して、差別ということに敏感にならざるをえなかったのです。

確かに、私もエイズに感染したら死ぬかもしれない、でもそんなことより、社会から排除されることのほうがもつと恐ろしい。そんな毎日を通りながら、ある日「弱者の権力」という言葉の存在を知りました。差別されているということが、ある種の力になっていくという事実を私は、その時、自分自身の中に感じました。

強いものは差別をする、弱いものはその差別の非道徳性を叫ぶことによつて、ある種の力をもつ。人間の社会はそのどちらかに偏つてしまう。悲しい悲しいありようです。

そのどちらからでも、離れるべきだと教えてくださるのが、浄土真宗の教えであります。

自分の中にある差別に気づき、気づいた故に少しでも差別から離れる努力をする。自分の中にある、被差別ゆえの力に気づき、その力を恥ずかしく思い、ブレーキをかける。それが、お念仏のはたらきではないでしょうか。

差別されることは本当に苦しいことです。でも、その苦しみさえ尊いお育てであったと感謝に変えてくだ

さる、そんなおはたらきがお念仏のおはたらきであります。もちろん、差別を肯定しているわけではありません。差別は否定されるべきです。しかし、否定されればされるほど、差別すまいと敏感になればなるほど、真剣になればなるほど、自分の中にある差別性に気づき、悲嘆にくれる。そのぎりぎりのところ

ろで、そのまま救うというお言葉が響いてくるのです。その悲しみに満ちた差別と無神経な差別を同列に語るべきではない、そう思います。これからの実践運動が、形式だけで終わらないように、差別し、差別されることから逃れられない、人の悲しみと苦しみに真に寄り添うものであるように、願っております。

## 第十回ビハークラ第四連区研修会

期 日 二〇一八(平成三十)年十月十一日(木)・十二日(金)  
会 場 島根浜田ワシントンホテル プラザ  
参加者 一五二名

山陰教区では十五年ぶり(三年に一度開催)となるこのたびの連区研修会は、浜田市の島根浜田ワシントンホテルプラザを会場に開催しました。総合テーマを「生・老・病・死を見つめ、ともに生きるビハークラ活動」とし、一日目に龍谷大学大学院教授で医学博士の田畑正久先生をお迎えして「医療現場で求められる仏教」と題して講演をいただきました。その後、引き続きホテルにて懇親会を開催、二日目は「妙好人めぐり」

を企画、浜田組光現さまに大型バスで移動後、本堂でご住職さまから妙好人・善太郎さんのお話しがあり、遺品の見学や記念撮影を行いました。平成二十三年度にビハークラ山陰として再結成後、初めて迎える連区研修会でしたが、各教区から一五〇名を超えて参加をいただき、今後の活動に向けて大きな弾みとなりました。



邑智東組（高倉宗隆組長）では、去る十月四日、津村別院で「第二回離郷門信徒の集いーふるさとの会」を開催しました。昨年「伝灯奉告法要」が勤修されたことを機縁として、都市部に出ている門信徒の皆さんと親鸞聖人の教え（浄土真宗）に出遇って本当に良かったと喜べる場を創ろうと「第一回離郷門信徒の集い」を昨年五月三十日、本願寺にての開催でした。邑智東組の各寺院に所属している離郷門信徒の皆さん約四十名が参加され有意義な集いでした。

今回は、第一回に参加された門信徒さんを中心に、邑智東組法類寺院（西福寺・光西寺・明照寺）が中心となって開催されました。十月四日津村別院に集合し、木下慶心輪番さまからご法話と津村別院の由来や現況を聴聞した後、職員の方から改めて津村別院の存在意義を学びました。郷里を離れ長年大阪の地に住んでおられる門信徒さんも少なくありませんが、津村別院に初めてお参りしたという方もいらっしゃ

**憂 楽 帳**

「離郷門信徒の集い」の活性化を図り、「御誕生850年・立教開宗800年」を迎えよう！

邑智東組 西福寺  
小笠原義宣

いました。「近いところに別院があるので、これからは別院にお参りしよう。」と喜んでおられる方も多く、参加者と別院の距離が近くなった一日でありました。

一方、少子高齢化が急速に進み、離郷門信徒一世も少数化してゆく中で、二世、三世にどの様にして繋いでゆくのかという今日的課題があります。これまでのように一ヶ寺で「集い」を開く方策だけではなく、組単位で広く門信徒さんに呼びかけ、門信徒さん側を縁として無縁の方や無信の方々も輪の中に呼び込んでゆけるような「門信徒の集い」を全国各地で開

催されるといった積極的な行動を喚起するべきであると提起し、ご報告と致します。



ます。これまでのように一ヶ寺で「集い」を開く方策だけではなく、組単位で広く門信徒さんに呼びかけ、門信徒さん側を縁として無縁の方や無信の方々も輪の中に呼び込んでゆけるような「門信徒の集い」を全国各地で開

## 編集後記

もうかれこれ50号の教区報に携わりました。今では教区報委員の最古参です。教区報は教区の歴史を知る大切な資料となっておりますし、教区が行っている行事も改めてたくさんあるものだと知らされます。

ところで先日NHKの女性ディレクターから電話があり、家屋の解体などに伴い、仏壇じまいをしなければという家からの問い合わせにどのように対処していますかということでした。多くのお寺に電話したけれど、拙寺だけが丁寧に対応したらしく、取材に行かせてくださいとのこと、三時間取材を受けたのですが、放映されたのは、わずか八秒でした。当日隠岐の高校の先生の不祥事があり、急遽編集し直したとか。

短くなってすみませんというディレクターからのメールがありました。一つの番組を製作するのにも、多くの取材をしているのですね。ポツになるのも相当あるのでしょうか。この教区報は提出していただいた文章をポツにすることはありませんので： (RS)

### 教務所冬期休暇のお知らせ

当教区教務所冬期休暇を次の通りとさせていただきます。

二〇一九（平成三十）年  
十二月二十九日（土）から  
二〇一九（平成三十二）年  
一月四日（金）まで

### 協賛 瀬尾浩義商店

〒七三三-〇八五一  
広島市西区田方三丁目  
九〇九-一-一三〇一  
TEL 〇八二-二七二-八四六一

ご本山の団体参拝は我が社にお任せ下さい

## 近畿日本ツーリスト

株式会社 近畿日本ツーリスト中国四国 山陰支店

〒690-0887 松江市殿町 517 アルファステイ殿町 1F  
TEL 0852-22-4893 / FAX 0852-27-8359  
営業時間 10:00~17:30 (土・日・祝日休業)